



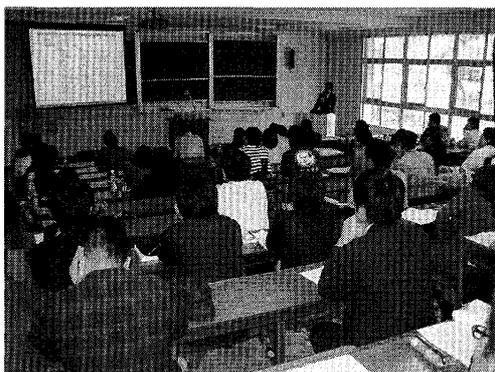
九州支部 12/3-4「第17回九州支部大会」報告

九州支部では毎年、支部大会と市民フォーラムを各県持ち回りで開催しております。今年度は第17回目の支部大会を、琉球大学農学部を会場とし、12月3日（金）と4日（土）に開催しました。例年土曜日だけの開催ですが、12月5日の那覇マラソンの開催により那覇市内の宿泊施設の予約が8月時点で取りづらい状況であったので、急遽日程を変更しました。それに加え3日は推薦入試と日程が重なってしまい、世話人の私が当日対応できない事態となってしまいましたが、他の琉球大学の生物工学会会員の皆様のおかげで、何とか大きな問題なく実施することができました。関係の皆様へ感謝いたします。

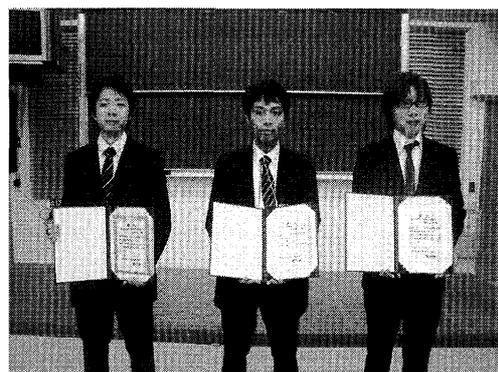
3日は、13時30分から同日開催のシンポジウム「沖縄から探る伝統的発酵における微生物の寄生・共生」が、本学会の微生物の寄生・共生から探る伝統醸造の深淵研究部会（事務局長：北垣浩志先生）主催で開催されました。推薦入試のため農学部会場が確保できず、工学部の教室を借りて開催しました。私自身は参加することができなかったのですが、81名が参加し大変盛況であったと聞いております。その後17時より、園元謙二九州支部長の挨拶の後に、飯島信司会長による「有用物質生産の生物工学的ストラテジー - 微生物、動物細胞、そして動物個体 -」と題した特別講演がありました。こちらも大変盛況で、琉球大学の一般の学生も参加しておりました。飯島先生の研究経歴のお話からトランスジェニックニワトリの研究のお話で、学生たちも興味深く聞きいっている様子が伺えました。その後、ミキサーは琉球大学生協の北食堂で、18時30分からの予定を少し早めて開催いたしました。正確に人数を数えませんが、70人以上の方に参加していただき、こちらが想定した人数を大幅に上回ってしまい、身動きがとれないほど手狭になってしまいました。また会場は、通常営業している食堂の一角をパーティションで区切っただけであったため騒がしく、ごあいさついただいた先生方にはご迷惑をおかけしました。不備はあったかと思いますが、学生の参加者が多く、先生方との距離を縮めるよい機会になったのではないかと感じています。

4日は、学生賞講演は午前中に終了させ評議員会で報告するために9時から開始、一般講演は9時30分から開始としました。参加者は一般80名と学生52名合わせて132名でした。一般講演は55件、学生賞講演は10件で、計65件の講演が行われました。第14回長崎大会から前回飯塚大会まで、講演はすべて液晶プロジェクターを用いて行われましたが、今回はトラブル回避のためにコンピューターを接続してではなく、印刷物を持参いただいて書画カメラ（OHC）を用いての講演としました。事前の連絡が遅くなり、ご迷惑をおかけしたのではないかと思います。この場でお詫び申し上げます。各会場とも多くの参加者が活発な質疑応答をされていました。昼の休憩時間には支部評議員会が開催されました。すべての発表が終了した後、15時30分から学生賞の表彰式が行われました。今回は、博士の部は黒木勝久（宮崎大）、修士の部は山本優（鹿児島大）と鈴木幸一（琉球大）の3名が受賞しました。審査委員長の赤松隆教授の講評の後で、各受賞者へ賞状と記念品の授与が行われました。

2011年度は、12月10日九州大学伊都キャンパスでの開催を予定しております。多くの皆様の参加を期待しております。
(外山博英)



シンポジウム



学生賞受賞者